

平成30年度翔洋学園高等学校経営計画

1 学校の現況

課程	広域通信制・単位制			理事長	佐藤 睦美		校長	中村 昌平		
事務局長	吉成秀晴		事務長	飯村信弘		教頭	高野佳規			
教職員数	校長	1	副校長	0	教頭	1	教諭	22	養護教諭	1
	常勤講師	10	非常勤講師	69	事務職員	8	非常勤事務	4	合計	116
普通科	1年次		2年次		3年次		合計			
生徒数	男	女	男	女	男	女	男	女		
	197	205	415	373	403	390	1,015	968		

2 目指す学校像

通信制教育を踏まえ、「自由・自主・自立」の校訓のもと、一人ひとりの個性を尊重し、自主的精神に充ち、21世紀の社会の有為な形成者として貢献しうる、心身ともに健康でたくましい心豊かな人材の育成に努める。また、一人ひとりの未来を創造する力「明日力」の育成を目指す。

3 現状分析と課題

項目	現状分析	課題
学習指導	近年、不登校経験者の入学が増加し、学習意欲はあるが、基礎学力が定着されていない生徒が多くみられる。個人の学力の定着に差があるため、個別学習による対応がほとんどである。	<ul style="list-style-type: none"> 通学しての学習の促進 基礎学力の定着 家庭との連携推進
進路指導	なかなか将来の夢や目標を持つ生徒が少ない。また、取り巻く家庭環境等により、進路が左右される生徒も多い。	<ul style="list-style-type: none"> HR（進路指導）の充実 望ましい勤労・職業観の育成 家庭との連携推進
生徒指導	内面的に問題を抱える生徒が増えている。規範意識やモラルが低く、基本的な生活習慣の欠如が目立つ。	<ul style="list-style-type: none"> 基本的な生活習慣の確立 規範意識の高揚 教育相談の充実
特別活動	対人関係を苦手とし、集団行動に適応できない生徒が多く、個別による対応が増加。生徒の活躍できる場を多く設定している。	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事の工夫改善 各種大会等への参加奨励 特色ある教育活動の推進

4 中期的目標

- 豊かな心をもつ人間性を育てる。
- 21世紀を担うリーダーを育てる。
- 自ら考え、主体的に行動できる生徒を育成する。
- 働きながら学ぶ生徒、自宅で学習する生徒を支援する。

5 本年度の重点目標

重点項目	具体的目標
1 生徒個々に応じた進路別学習指導の充実	各学習センターの教員が、生徒一人ひとりの能力や個性に応じた適切な個別指導を行い、それぞれが目標達成できるように支援する。
2 心の教育を重視したホームルーム活動の充実	各学習センターにおいてHRでは創意工夫し、様々な機会を通して生徒との信頼関係づくりを図る。また、道徳教育の充実を図り、生徒一人ひとりの豊かな心の育成を図る。
3 学校行事への積極的な参加	校外学習や各種大会等の行事に工夫を凝らし、教師と生徒、生徒同士の交流を深め、より充実した高校生活を送れるよう支援する。
4 多様なメディアを活用した学習支援の充実	学校や家庭においてメディア学習を希望する生徒に対しては、可能な限り多様なメディア教材（NHK高校講座、CD-ROM等）を活用して学習支援をする。

平成30年度

学校経営計画＝（教育計画・評価表）

目指す学校像	通信制教育を踏まえ、「自由・自主・自立」の校訓のもと、一人ひとりの個性を尊重し、自主的精神に充ち、21世紀の社会の有為な形成者として貢献しうる、心身ともに健康でたくましい心豊かな人材の育成に努める。また、一人ひとりの未来を創造する力「明日力」の育成を目指す。				
昨年度の成果と課題	重点項目	重点目標	達成状況		
<ul style="list-style-type: none"> 定通体育大会や生徒生活体験発表県大会、また各センター行事等に多くの生徒が参加、活動し、より教育的効果が上げることが出来た。 職員間の共通理解や家庭（保護者）との連携などを一層図る必要がある。 	生徒個々に応じた進路別学習指導の充実	各学習センターの教員が、生徒一人ひとりの能力や個性に応じた適切な個別指導を行い、それぞれが目標達成できるように支援する。	B		
	心の教育を重視したホームルーム活動の充実	各学習センターにおいてHRでは創意工夫し、様々な機会を通して生徒との信頼関係づくりを図る。また、道德教育の充実を図り、生徒一人ひとりの豊かな心の育成を図る。	B		
	学校行事への積極的な参加	校外学習や各種大会等の行事に工夫を凝らし、教師と生徒、生徒同士の交流を深め、より充実した高校生活を送れるよう支援する。	A		
	多様なメディアを活用した学習支援の充実	学校や家庭においてメディア学習を希望する生徒に対しては、可能な限り多様なメディア教材（NHK高校講座、CD-ROM等）を活用して学習支援をする。	B		
評価項目	具体的目標	具体的方策	評価	次年度への主な課題	
国語	・基礎的な知識の定着を図る。	・漢字の読み書き、四字熟語、故事成語、語句の意味調べ等、辞書を活用する内容をレポートに盛り込み、基礎基本を身につける。	C	C	・本年度の指導を継続・発展させて総合力を培う。 ・基礎学力の底上げを図る。
		・生徒の実態に即したレポートを作成し、個別指導を重視する。	C		
地・歴	・紡がれてきた歴史に自分達もつながっているという自覚を持たせ、歴史への関心を高める。	・各学習センターでのレポート学習指導における補足説明により、理解を深める。	C	C	・レポートの内容充実と精選を図る。 ・生徒の実態に合わせた指導法の検討。
		・レポート内容の再検討をする。	B		
公民	・自分達の生活がどのような仕組みの上に成り立っているのかを理解させる。	・各学習センターでのレポート学習指導における補足説明により、理解を深める。	C	C	
		・レポート内容の再検討をする。	B		
数学	・基礎学力の向上を図る。 ・学習意欲の喚起を図る。	・個々の実態に応じた個別指導を行い、基礎・基本の確かな定着に努める。	C	C	・生徒の実態に合わせた地道な指導の継続。
		・日常生活と関連させながら、学習意欲の高揚に努める。	D		
理科	・自然に対する興味・関心を高め、科学的なものの見方や考え方を養う。 ・基本的な自然現象における規則性を理解させる。	・校外学習を多く取り入れ、実際に体験させることにより自然への興味・関心を高め、自ら学ぼうとする力をつける。	B	B	・スクーリングでの実験や体験学習などを通して、楽しみながら学べるよう努める。
		・充実した内容のレポートを作成させる。	B		
		・生徒個々のレベルに合わせた個別学習を強化する。	A		
保体	・学習をやり終えることで得られる達成感や身体的な健康のみならず、精神面での充実を目指す。	・各学習センター行事の励行と定期的な体育スクーリングに限らない運動の機会を設ける。	B	B	・活動の場の設定を工夫し各種の運動に対する参加を高めるよう努める。 ・定通大会への参加の呼びかけ。
		・定時制・通信制体育大会への積極的な参加をする。	B		

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価		次年度への主な課題
芸術 (書道)	・書に親しみ、書写能力の向上を図る。	・硬筆だけでなく、筆ペンを用いた書写を取り入れ、毛筆への興味を高める。	C	C	・レポート内容の工夫。 ・スクーリングの実技を通して、芸術を愛好する心情を育む。
		・レポートの添削は、個に応じきめ細やかなアドバイスを与える。	D		
外国語	・基礎基本の定着を図る。 ・興味・関心をもたせ、継続的な自学自習の定着を図る。	・レポートの内容を充実させ、学習意欲を継続してもてるよう支援する。	B	B	・生徒の実態に合わせた地道な指導の継続。
		・一人ひとりの学力に応じたきめ細やかな指導を心掛ける。	B		
家庭	・生活に必要な知識・技術の習得に努める。 ・生活を工夫し創造する能力を育成する。	・生徒一人ひとりの技術に応じた個別指導をするとともに、きめ細やかなレポート添削をする。	B	B	・スクーリングの内容をより生徒の実態に合った内容になるように工夫する。
		・子どもの発達と保育、高齢者の生活と福祉などのようにライフステージごとに生徒自身の問題としてとらえさせる。	A		
情報	・コンピュータの操作や情報の管理が確実にできるようにする。	・課題解決のための資料作成等がスムーズに行えるよう、基本的な操作手順を習得させる。	B	B	・生徒の実態に合わせたレポートや指導法を検討する。 ・資格取得の支援を充実する。
		・著作権や情報モラルについての理解を深め、トラブルに巻き込まれない知識を身につけさせる。	B		
学習指導	・基礎学力の定着を図る。 ・個に応じたきめ細やかな指導の徹底を図る。 ・継続的な自学自習の定着を図る。	・学習環境の整備と充実に努める。	C	C	・生徒の特性にあった学習指導・情報の提供。
		・レポートをレベル分けし、個々の学力に応じたレベルを選択させながら、学習意欲を継続的にもたせるようにする。	B		
		・多様なメディア教材を活用し、自学自習の習慣化が身につくように支援する。	D		
特別活動	・望ましい集団活動を通して、基本的な生活習慣や円滑な人間関係を築き、自主的な態度を育成する。	・HR活動や道徳教育などを通して、学校生活への適応を図るとともに、豊かな心を育む指導を行う。	B	B	・センター行事に積局的に参加する生徒が多くなったが、さらに多くの生徒が参加できる魅力ある行事の検討。
		・学校行事やセンター行事に積極的に参加させ、学校生活の充実と体験的な活動ができるように支援する。	B		
進路指導	・望ましい勤労観・職業観の育成と進路意識の高揚に努める。 ・個に応じた進路指導の充実を図る。	・進路ガイダンスを定期的実施し、職業観の育成や希望進路実現に向けての指針を与え、進路に対する意識の高揚を図る。	B	C	・生徒の特性にあった進路情報のさらなる提供。
		・履修相談、三者面談等を通して、能力や適性に応じた進路選択ができるようにする。また、進学指導や就職指導など、個に応じたきめ細かな指導を行う。	C		
生徒指導	・社会に適応できる人間の育成を目指す。 ・場面に応じた指導を心掛け、迅速な対応を目指す。 ・公共マナーの向上と規範意識の定着を図る。	・基本的な生活習慣が身につくように支援する。	B	A	・生徒が毎日登校するわけでもないのに指導の徹底が難しいが、能な限り社会的規範の向上に努める。 ・巡視活動の徹底と他校と密な情報交換を図る。
		・教員間の共通理解を図り、迅速かつ適切な指導を行う。	A		
		・巡視活動を行い、問題行動等の未然防止に努める。	A		
		・「豊かな心を育む指導」を通して、薬物防止や交通マナーの遵守等の継続的な指導をする。	A		
保健環境・安全	・心身の健康と自己管理能力の育成を図るとともに、環境衛生と安全管理の徹底に努める。	・健康診断や健康調査により、健康管理の必要性について理解を図る。	C	C	・防災設備、備品等の充実 ・安全点検表の見直し 健康診断、歯科検診の受診を勧めるとともに、再検査が必要な生徒については迅速に受診を勧める ・う歯保有者が多いことから、歯科受診の勧めの強化 ・全学習センターの保健指
		・HRや保健だよりにより健康の保持増進について意識高揚に努める。	C		
		・整理整頓や施設設備の点検により、環境の充実と事故防止に努める。	C		

					導（性，薬物，救急法）の実施の周知
センター運営	・各学習センターと本校が連携を深め，特色ある運営を推進する。	・各学習センターが特色ある教育活動（体験学習等）を展開していく。	B	B	・各学習センターの更なる特色化の徹底を図る
		・出身中学校，前籍校，保護者等と情報を共有し，連携を図る。	B		
		・生徒一人ひとりの居場所であるような雰囲気づくりを図る。	B		

【評価基準】 A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない